

小学校における英語活動

～わあ、楽しいなあ！という笑顔あふれる授業をめざして～

大阪府寝屋川市立木田小学校 中村 佳子，一瀬 照美

寝屋川市小中学校英語教育特区の認定を受け、平成17年度に「国際コミュニケーション科」としてゼロからスタートしました。指導者も児童も、開始時にはとまどうことが多くありましたが、4年を経てようやく一定のスタイルができてきたように感じています。

1. ゼロから積み上げたもの

新しい学習指導要領の外国語活動で示された目標を念頭に置きつつ、学ぶ意欲を中学校につなげられるよう、日々の授業に工夫をしています。

担任、英語担当教員（担任外2名、英語が専門ではない）、英語教育支援者（市独自で2小学校に1名配置）、NET（全授業の4分の1程度）で指導にあたります。最大4名、最小2名のチームティーチングです。20分の休みや放課後に打ち合わせをします。

授業はEnglish Roomで行っています。壁には、授業でよく使う絵、月の名前や曜日などの英語を書いた紙、歌詞をはっています。CDプレーヤーとリズム付きの電子ピアノを置き、歌の伴奏や、センテンスを繰り返し練習したり、チャンツをしたりするときに使用します。児童は、この部屋に入るときに気持ちを切り替えます。

寝屋川市の標準シラバスに基づき、児童の実態に合わせて年間計画を編成しています。5、6年生のみ年間35時間で始めた1年目は試行錯誤の連続でした。2年目から、低学年で年間10時間、中学年で年間20時間が加わりました。その積み上げがあって、高学年は、英語活動をあたりまえのこととして受け止め、前向きに取り組んでいます。

低学年の授業では、英語の歌やチャンツを

通して、英語の持つ音やリズムに親しませるようにしました。ゲームを楽しんだり、英語を動作化したりすることにより、英語そのものに親しませていきました。

中学年の目標は、低学年で聞いてきた英語を少しずつ自分のものとして使えるようになることです。4年生では、「アラジンと魔法のランプ」の劇に挑戦しました。

高学年の授業では、児童のモチベーションをいかにしてあげるかがポイントになります。6年生は修学旅行先の広島平和公園で外国人観光客の方々と交流し、楽しいひとときを過ごしました。

2. 1時間の授業の流れ

担任と英語担当で相談し、毎時間のレッスン・プランを作成しています。基本の流れは、①Greeting（テーマソング、あいさつ）、②Warm up、③Review、④Target sentence（ねらいを明確にする）、⑤Activity（毎回、児童が一番楽しみにしている）、⑥Good-bye（終わりのあいさつ、まとめ、テーマソング）です。

3. 小小・小中の連携、他教科との連携

寝屋川市では、2つの小学校が1つの中学校に進学する小中一貫教育を全市で進めています。同じ中学校に児童が入学するもう一方の小学校とも、日頃からカリキュラムの内容等についてよく話し合っています。中学校英語科とも定期的に会議をもち、互いの授業に

教員が参加するなどの交流をしています。

5年生のLet's Enjoy Cooking!では、家庭科と連携し、実際にクッキーを焼くことにしました。もう一方の小学校で実施したクッキーのレシピをヒントに、イニシャルや絵を入れて焼けるよう試作をくりかえし、木田小レシピを完成しました。

英語で調理を進めるためのクラスルーム・イングリッシュや英語版レシピの作成には、英語教育支援者に助けてもらい、NETのチェックを受けました。また、この授業には中学校の英語科の先生を招待し、児童といっしょに参加してもらいました。

担任が挨拶のあと、曜日、日付、天気を尋ねます。「How are you?」ときくと、給食を食べたばかりなのに児童からは「I'm hungry!」と大きな返事が。気分はかなり盛り上がっています。

家庭科の先生、英語担当教員と挨拶したあと、「Preheat the oven to 190 degrees.」の指示で、さっそくオーブンをあたためます。児童が日本語を話すと、すかさず「No. English, only. OK?」と声がかかります。児童は静かになり、英語での指示に集中。

「Today we need six ingredients.」英語教育支援者、NET、3人の中学校の先生、担任に、「I want ~.」と言って6人のメンバーが1つずつ材料を調達してきます。「Here you are.」と言って手渡されたら、「Thank you.」も忘れずに言います。

「Put butter and sugar in a plastic bag.」を聞きながら、指導者のデモンストレーション

に児童の目はくぎづけです。自分たちも同じようにして、「Mix.」と言って交代でも混ぜます。flour（ホットケーキミックスを使っています）を入れて混ぜ、beaten eggを加えて混ぜます。指導者がワンステップずつ簡単な英語をくりかえし言いながら動作を見せると、児童からもその英語が出てきます。

ひとかたまりにまとめた生地をとりだして、12個のクッキーにします。chocolate chipとdried fruitで飾りつけ。一人2個のうち、「One is your initial.」例をあげながら英語で説明します。「The other is anything you like.」児童の「どういう意味?」には、英語風に「お好きにどうぞ」と答え、笑いの中で次にすすみます。

オーブンでクッキーを焼いている間に、手を洗います。がやがやしていても、3年生から聞いてきたOpen, Shut Themの音楽が流れると条件反射的に静かになります。そこで調理の動作を示す表現、材料の名前、どんな味か説明する言葉を復習します。

いよいよクッキーのでき上がりです。待ちに待った試食。「How was it?」ときかれて、「Sweet.」「Delicious.」「Spicy.」えっ? 「Spicy」のような、saltyのような、delicious.」英語でも笑いをとりたい大阪の子どもです。

作業をするときは「Stand up.」指示を聞くときは「Sit down.」オーブンのボタンを押す、大さじ3杯のとき卵を入れる、クッキーをお皿にうつす、そのたびに英語で数えます。英語を使うことを楽しみながらクッキーづくりに励みました。

「国際コミュニケーション科」の開始から4年、英語活動が児童の中に確実に定着しているという感触を強く持つことができました。このような授業ができたのは、英語担当教員のコーディネーターとしての役割が大きいと感じています。各担任、英語教育支援者、NETとのチームワークが、児童がいきいきと活動する授業につながっています。児童の笑顔に励まされて、ここまでできました。これからも、さらにいい英語活動をめざしてがんばりたいと思います。